

注目の3月FOMCを受けた為替レートの行方

ド ル円レートは今月上旬に上昇し、以降121円台をキープしてきたが、18日のFOMCを受けてドルが下落、足元は120円台半ばにある。

今回のFOMCでは、景気認識と成長率見通し、政策金利見通しの下方修正に加え、議長会見でもハト派的な発言が多く、想像していた以上にFRBが慎重に利上げを進める姿勢が目立った。この結果、利上げの開始時期とペースに対する市場の観測は前倒しされにくくなり、当面のドル高圧力は従来予想していたよりも緩和しそうだ。ただし、米国の年内利上げは揺るぎそうもなく、今後も時間の経過とともにドル高圧力は高まる。さらに、春以降は日本の物価上昇率がマイナスに向かうことで、日銀の追加緩和期待がやや高まるだろう。米当局からのドル高牽制には注意を要するが、円安ドル高の方向性は従来から変化なく、3ヵ月後の水準は現状比でやや円安ドル高と予想する。

ユーロ安基調が続いていたユーロ円相場は、FOMC後の大幅なユーロ買戻しにより足元は129円台後半に回復。今後しばらくは開始したばかりのECBの量的緩和に意識が向きやすく、ユーロ売りが強まる場面が想定されるが、春以降は日銀追加緩和期待もあって円に対するユーロ売りは勢いを削がれる。3ヵ月後のユーロ円は現状程度と見ている。

長期金利は入札の好不調に一喜一憂し、安定感を欠いているが、日銀の国債買入れの下、債券需要は根強い。今後は入札をこなすことで投資家からの買いが戻り、金利低下圧力になるだろう。一方で、米金利上昇が上昇圧力となるため、3ヵ月後は現状比横ばい程度と予想。

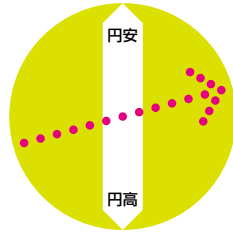


シニアエコノミスト **上野 剛志**
 つえの・つよし | tueno@nli-research.co.jp
 1998年日本生命保険相互会社入社、
 2001年同融資部門財務審査部配属、
 2007年日本経済研究センターへ派遣、
 2008年米シンクタンク
 The Conference Boardへ派遣、
 2009年ニッセイ基礎研究所(現職)。

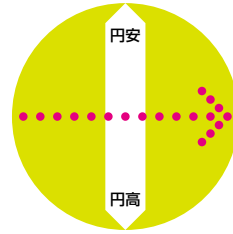


Market Karte

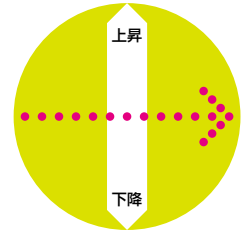
April 2015



ドル円・3ヵ月後の見通し

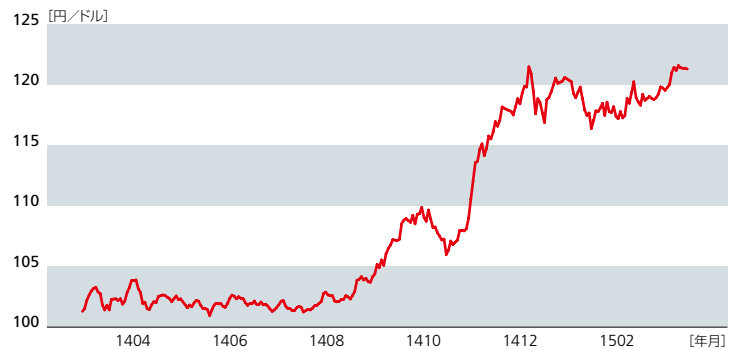


ユーロ円・3ヵ月後の見通し

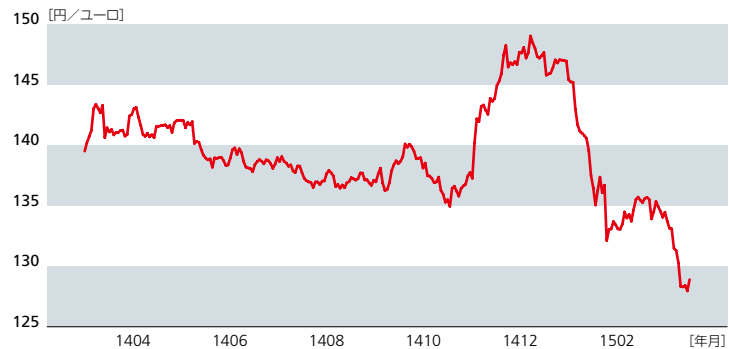


長期金利・3ヵ月後の見通し

ドル円為替レートの推移[直近1年] 資料:日本銀行



ユーロ円為替レートの推移[直近1年] 資料:ECB



長期金利(10年国債利回り)の推移[直近1年] 資料:日本証券業協会

